

令和 4 年 11 月 17 日

## 森の力再生事業評価委員会部会における技術面の検討（中間報告）

（静岡県森の力再生事業評価委員会部会）

## 1 部会員（敬称略・50音順）

浅見 佳世 委員（常葉大学大学院環境防災研究科准教授）

小南 陽亮 委員（静岡大学教育学部教授）

榎本 正明 委員（静岡大学農学部准教授）

## 2 開催日

第1回 令和4年7月5日（火）10時～12時（オンライン）

第2回 令和4年7月26日（火）10時～12時（オンライン）

第3回 令和4年10月24日（月）10時～10時30分

## 3 検討内容

## （1）針広混交林化を図る観点から見た現行の基準

現行の基準		意見
下限値	おおむね5m以上	○5m未満の伐採では、残存木の枝葉が成長することで、伐採後わずかな期間で林内が暗くなり、下層植生が衰退してしまうので、最低でも5mは必要。
上限値	残存林分の樹高のおおむね2倍未満	○樹高の2倍未満程度の伐採であれば、森林の水や土壌等の物理的環境が急変する可能性は低く、徐々に多様な植生が発生してくる。 ○ただし、幅広く伐採する場合は、以下の点に留意 ・林内に広葉樹の幼木が存在する、近隣に種子供給源となる広葉樹林が存在するなど、伐採後に広葉樹が速やかに成長できる見込みがある森林であること ・広葉樹の成長状況をモニタリングし、獣害対策などの必要な管理を行うこと

## （2）災害リスクの観点から見た現行の基準

- ・森林内の土砂の移動、流出タイプは、「表面侵食」、「表層崩壊」、「深層崩壊」の3つに大きく分けられ、伐採が及ぼす影響はそれぞれ異なる（別表のとおり）。
- ・表層崩壊は、樹木の根が分布する深さで発生する崩壊で、その発生の可能性は、伐根が土壌を押しやる力、傾斜、地形に起因し、伐採幅は影響しない。
- ・幅広く伐採する場合は、残存林分で風倒被害等が発生しないように、伐採区域の配置や大きさを設定することが必要である。

(別表)

区分	崩壊の状況	主な発生要因	その他
表面 侵食	<ul style="list-style-type: none"><li>・表土の流出 (崩壊ではない)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・降雨 (雨が地面に直接当た ることで発生)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・大規模な土砂災害の発生 の誘因となるものではない</li></ul>
表層 崩壊	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹木の根が分布 する深さ(おお よそ1~2m の深さ)で発生</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・伐根が土を押し さえる力の低下</li><li>・急傾斜地</li><li>・水の集まりや すい地形</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・伐採幅は影響 しない</li><li>・伐採木の根は、 伐採から5~ 10年後に腐朽 し始め、20年 程度でほぼ腐 朽し、伐根が 土を押しさ える力は低 下</li><li>・残存木や自然 発生する広葉 樹の根が発 達し、土を 押しさえる 力は回復</li></ul>
深層 崩壊	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹木の根が分 布する深さよ りも深い位 置で発生</li><li>・表層崩壊よ り大規模</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・降水量</li><li>・急傾斜地</li><li>・水の集まり やすい地形</li><li>・地質</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・樹木の状 態や伐採は、 発生の原因 と関係しな い</li></ul>